

1. 調査報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	3170200913
法人名	社会福祉法人 養和会
事業所名	グループホーム 仁風荘一番館
所在地 (電話番号)	〒683-0841 鳥取県米子市上後藤8-9-23 (電話) 0859-24-9111
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	〒683-0805 鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル207
訪問調査日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	木 造 造 り	
	1 階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1050	円

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 養和病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、法人の運営する各種の福祉施設の一つで、同じ敷地内に福祉ホームや授産施設がある。中でも、地域交流の拠点にもなっているカフェレストあぶりこ(サロン)が併設されており、地元のボランティアによるコンサートを行う等して地域に根ざしたホームを目指す活動が始まっている。グループホームでは利用者の人としての尊厳を大切にする支援が日常的に行われており、管理者を中心に職員間の連携もよく、職員の生き生きとした様子が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の主な参加メンバーに家族や地域住民の参加が改善課題であったが、早速改善がなされていた。また、市町村との連携では、移動してきた管理者が認知症介護指導者の資格を有しており、市町村の行う認知症対策会議等のメンバーとして参加されており、サービスの質の向上に努めておられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、日ごろのカンファレンスで挙げたものを、管理者が一部にまとめられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用状況の報告に止まらず、地域住民の催し物の日程調整や介護相談等交流について具体的に話し合いが持たれ、利用者及び家族、関係施設職員、地域包括、地域住民等の参加により、活発な意見交換がなされ、サービス向上に活かされている。管理者が(認知症ケア研修講師)市町村の認知症対策会議や研修等にスタッフとして関わりを持ち、現場の意見や情報を提供する事で、サービスの質の向上に向け取り組みに努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人全体で顧客満足度アンケート調査が行われ、意見や不満・苦情等を聞く機会を設けている。ホーム独自で夕食会や忘年会を開催し、利用者・家族間交流を行いながら、希望や意向の抽出に努めている。同敷地内に法人が開設している授産施設の喫茶店(授産施設で作られたパンやクッキー、ケーキ等も販売)の地域交流サロン「あぶりこ」にて介護相談・地域交流の場として利用させていただいている。ホームの利用者・家族も喫茶を楽しんでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同敷地全体で自治会にも入会し文化祭に参加したり、ホーム便りを回覧して頂いている。近隣の小学校の運動会や生活発表会への参加、保育所の訪問交流をうけたり、とんどさんや地区の一斉清掃等の活動へ利用者と共に参加し地域の人々と意欲的に交流されている。</p>

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念でもある「わたくしたちは地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される、施設をめざします。」を地域密着型サービスとなる前からホームの理念としても掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者始め職員全員が毎日理念の唱和と目視にて確認しており、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同敷地施設全体で自治会にも入会し文化祭に参加したり、ホーム便りを回覧して頂いている。近隣の小学校の運動会や生活発表会への参加、保育所の訪問交流をうけたり、とんどさんや地区の一斉清掃等の活動へ利用者と共に参加し地域の人々と意欲的に交流されている。		同敷地内に法人が開設している授産施設の喫茶店(授産施設で作られたパンやクッキー、ケーキ等も販売)の地域交流サロン「あぷりこ」にて介護相談。・地域交流の場として利用させていただいている。ホームの利用者・家族も喫茶を楽しんでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者始め職員は評価を受ける意義について理解し、日ごろのケアについて振り返る良い機会と捉えている。今回の自己評価についても、日ごろのカンファレンスで挙がったものを、管理者が一部にまとめられた。		昨年の外部評価結果を踏まえ、管理者を先頭に改善課題について全員で話し合い、改善に向けて努力された事が確認できた。自己評価の表現が簡潔すぎて理解しにくく、利用者や家族にも解りやすい記述をお願いした。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況の報告に止まらず、地域住民の催し物の日程調整や介護相談等交流について具体的に話し合いが持たれ、利用者及び家族、関係施設職員、地域包括、地域住民等の参加により、活発な意見交換がなされ、サービス向上に活かされている。		今後、行政職員の会議参加に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が(認知症ケア研修講師)市町村の認知症対策会議や研修等にスタッフとして関わりを持ち、現場の意見や情報を提供する事で、サービスの質の向上に向け取り組みに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りに、利用者の担当職員が健康状態や生活状況についてコメントを書き入れて家族に報告されている、また、職員の異動や行事の案内はその都度家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で顧客満足度アンケート調査が行われ、意見や不満・苦情等を聞く機会を設けている。ホーム独自で夕食会や忘年会を開催し、利用者・家族間交流を行いながら、希望や意向の抽出に努めている事が確認できた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に配慮されており、新任職員は家族会や忘年会、ホーム便り、運営推進会議でも自己紹介され、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自で、研修計画も含まれた「目標管理シート」を作成し、目標に向けて取り組んでいる。達成度については、自己評価と管理者評価が行われている。職員が研修等で学んだ事を、日々のケアの中で活かせる様に、管理者が指導・助言を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、相互研修も参加実施されている。研修後は報告会も開かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事前訪問を行い、利用者の状況を把握し、空室があればショートで体験利用を使い、利用者や家族の状況を見ながら、相談を重ね馴染めるよう工夫がなされている事が聞き取りで確認できた。待機者が多くおられる事から、管理者が訪問して、馴染みの関係づくりに努められており、待機者家族のフォローも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を「人生の先輩としての尊厳を大切にする」という考えを職員が共有しており、本人を知ろうとする姿勢、意向を引き出そうとする姿勢が伺え、一緒に笑ったり、泣いたり利用者と共に生活の中で支え合い、解り合える関係に楽しさを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“利用者と共に考える週間”を設け、担当職員は利用者一日ゆっくと過ごし、管理者が試行錯誤して作った「かもしれないシート」を活用し、利用者の思いや意向、希望の把握が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時の課題抽出に管理者が試行錯誤して作られた「かもしれないチェックシート」や「ポジティブシート」を使用し、センサー方式も引用しながら、利用者の新しい一面と課題の発見に努め、本人や家族の意見も取り入れながらケアの方向性等具体的な介護計画が作成されている。また、計画書類は直ぐに見られるようになっており、記録も計画に沿って記入出来る様に工夫がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に評価・見直しがなされており、記録も確認できた。急な変化も随時プラン見直し・変更が成されている。計画変更時の担当者会議に利用者や家族も参加されていることが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	かかりつけ医への受診付き添い や買い物、利用者自宅の畑へお 弁当持参で同行し、利用者とい っしょに畑仕事をしたり、ホーム の畑づくり等、利用者の要望に 応じて様々な支援が成されてる。 また、家族と共に温泉施設へ出 かけ、食事会や忘年会を開催し 、交流の機会を設けるなど柔軟 な支援が成されてる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	かかりつけ医は本人・家族の希 望に応じて職員が同行受診の支 援を行っている。終末期を迎え る利用者の為に、往診をして頂 ける新たなかかりつけ医を開拓 している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関して、サー ビス利用開始時に本人・家族と 話し合い、意向や方針を共有し ている。昨年、入院中のホーム 利用者が看取りを希望され、管 理者始め職員、本人・家族、か かりつけ医と話し合いを行い、 ホームの利用者と共に看取りを 行っている。今後の事を考え、 24時間対応可能なかかりつけ 医の確保や職員の構成を換え る等している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	職員は理念に基づいて一人ひと りの尊厳や権利を守る事につい て徹底を図っている。利用者の 誇りを傷つけたり、プライバシー を損ねるような関わりは見受け られなかった。個人情報の取り扱 いも本人・家族に同意書で確認 がなされ、個人記録等は鍵のある 棚に収容され、取り扱いに配慮 されてる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先す るのではなく、一人ひとりのベ ースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそっ て支援している	食事の時間等基本的な一日の流 れはあるが、散歩で摘んできた 花を生けたり、ホームの畑の世 話をしたりと、思い思いに過ご されている。職員間で急な外出 を希望する利用者にも対応しよ うとする姿勢が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の献立を考え、一緒に買物や調理、盛り付け、配膳とそれぞれの能力を活かしながらか行われていた。食後の後片付けも全員が出来る範囲で参加し、職員との連携が自然体で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿った入浴の支援が基本となっており、夕食後の入浴希望者にも対応出来るように勤務のローテーションを見直し、入浴を楽しめるように支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「かもしれないシート」などで情報収集し、利用者と一緒に畑づくり等や花の好きな方には散歩で摘んできた花と一緒に生けたり、お化粧品やおしゃれを楽しんだりと本人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごとを、気晴らしに支援が成されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の気分や健康状況、天気等を見ながら、希望に応じて、散歩、ドライブ、外食、お弁当持っでの遠足等日常的な外出支援が成されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、勝手口、窓等鍵かけは成されておらず、開放的である。職員は常に見守りを行いながら、出られる利用者に寄り添い一緒に散歩などを行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施されている。地域消防団、近隣施設や住民への声掛けも行い、自治会メンバーの参加・協力もみられる。備蓄に関しては法人で同一敷地内の施設に確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日チェック表に記録されており、それぞれの栄養状態を職員が把握し、水分は一日1500ml摂取を目標に援助が成されている。ホーム職員に栄養士も配置されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には散歩で摘んできた花が生けられており、共有空間には、利用者と職員が一緒に考えて作ったものやお雛様が飾られており、季節が感じられる落ちつきのある空間となっており、不快な音や光も無く、利用者も居心地良さそうに過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の掃除も利用者と一緒に行為されており、きれいにされており、使い慣れた筆筒や布団、思い出の品や仏壇が持ち込まれており、家族の写真や好きな花を飾ったりして本人が居心地良く過ごせるよう配慮がなされている。		